

質問回答

2014年12月1日

「スリランカ国橋梁維持管理能力向上プロジェクト」

(公示日:2014年11月19日/公示番号:140968)について、業務指示書に関する質問と回答は以下のとおりです。

通 番 号	当該頁項目	質問	回答
1	6. 業務の内容 (7) 供与機材	橋梁点検車につき、機材の仕様作成はコンサルタントの業務内容として記載されていますが、「入札を含めた調達・引き渡し」は本コンサルタントの業務に含まれるのでしょうか。あるいは、貴機構のほうで調達・現地政府への引き渡しを行い、本コンサルタントが業務で使用できるようにしていただけるのでしょうか。	本業務においては、仕様書作成から機材の検収までの一連の業務を行っていただきます。詳しくは「機材本邦調達支援業務ガイドライン」をご参照ください。 (http://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/ku57pq00000kzw-att/a1410146405470.pdf)
2	6. 業務の内容 (7) 供与機材	橋梁点検車の供与について、指示書から別発注と読み取れますが、受注者は仕様書作成と現地での受入れ支援手続のみと解釈してよろしいでしょうか。	なお、プロジェクト開始後、1年半～2年後に機材の引き渡しを行い、業務で使えるようにする予定です。
3	P15 「(5)橋梁マネジメントシステムの構築」について	BMS開発費用につきまして、「橋梁諸元情報の管理(諸元、位置情報など)、点検結果・診断結果・補修履歴の管理(記録、写真など)、予算化機能(補修費の算出)を着実にできるシステムを想定している。」と業務指示書に記載がありますが、予算化機能の実現には、諸元、点検データの構造的な記録及び、予測評価のための演算機能が不可欠であり専門会社による開発が必要と思われます。この場合、再委託要件として必要機能を想定のうえ、提案書に記載すると共に別見積書を提出するという事でよろしいでしょうか。	予算化機能(補修費の算出)については、諸元、点検データの記録、予測評価の演算機能を組み込むことは想定しておりません。点検・診断された劣化機構に対して、C/P 機関(人の判断)により典型的な補修事例を選択できるような仕組みを想定しております。つまり予算化機能とは、点検・診断結果から自

		<p>BMS機材について、BMS を駆動させるためにハード機器及び OS 等ソフトウェアが必要になると考えられますが、これらの為の機材についても見積もり計上する解釈でよろしいでしょうか。また、ランニングコスト及びハードウェアリプレース以降のコストは、C/P 負担と解釈でよろしいでしょうか。</p>	<p>動的に補修工法・補修費が算出されるものではなく、人によって選択された補修工法から補修費が算出できる機能と考えております。よって、上記の内容で本見積りに含めていただくようお願いいたします。</p> <p>BMSに必要なプログラム、データベースサーバー、管理用端末、ソフトウェア等は本契約の金額に含め、見積書に記載してください。</p> <p>なお、ランニングコスト及びハードウェアリプレース以降のコストは、C/P 負担との解釈で結構です。</p>
4	<p>貸与資料 RECORD of DISCUSSIONS P.5 「(2)Input by MoHPS」について</p>	<p>「コンサルタント等契約における見積書作成ガイドライン」に示されている第3章直接経費の費目別説明にある(3)一般業務費について、「ウ.車両関連費、エ.賃借料、オ.施設・機材保守管理費、コ.水道光熱費」は計上せず、これらを除く「ア～サ」で必要な費目を計上する解釈でよろしいでしょうか。</p>	<p>車両関連費については計上してください。</p>

以上